

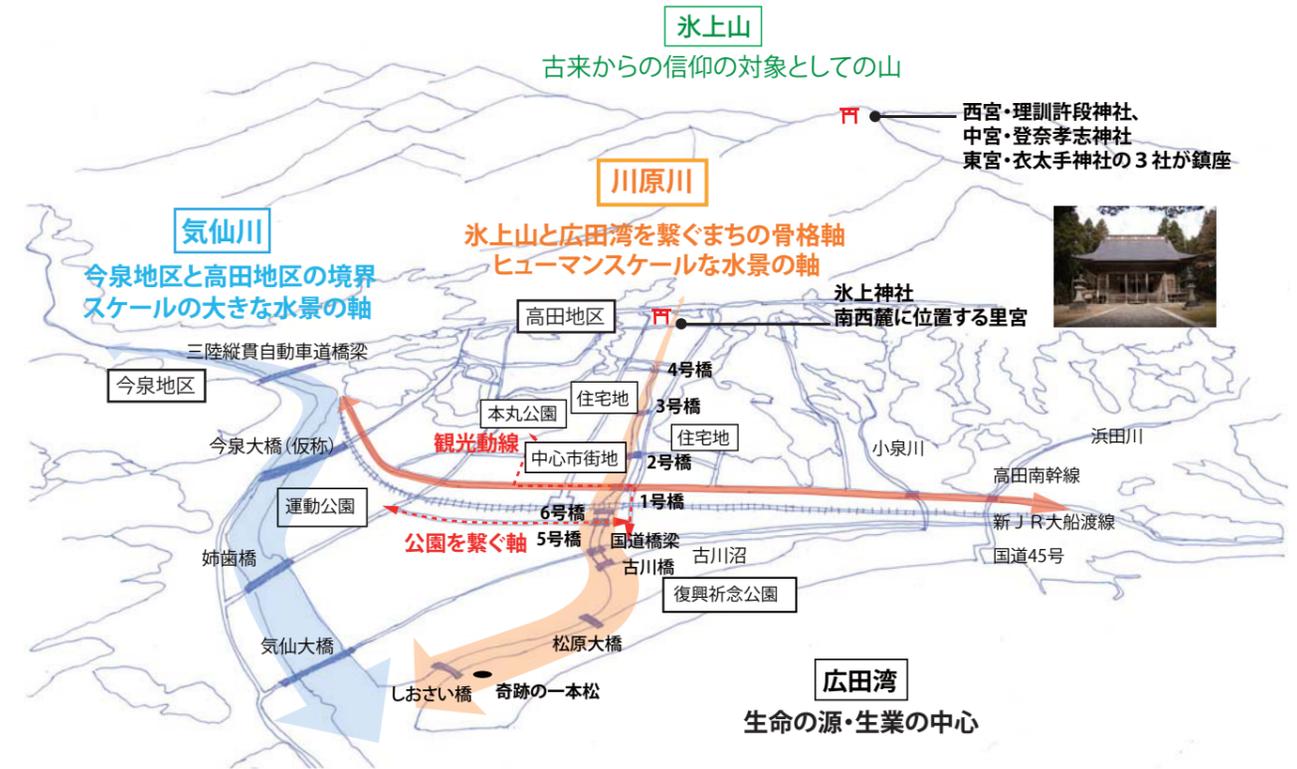
## ■ 陸前高田にとっての川原川（公園）

### ◇ 川原川（公園）の都市的な位置づけ

- ・陸前高田には、気仙川・川原川・小泉川・浜田川と大きく4つの河川が流れている。
- ・気仙川は、今泉地区と高田地区を分かつ境界の役割を果たし、川幅が大きくスケールの大きな水景の軸として位置する。一方で、高田地区の中心を流れる川原川は、古来からの信仰の対象である氷上山と広田湾を繋ぐ、云わば『まちの骨格』ともいえる軸であり、陸前高田の自然・文化・記憶の継承の軸として位置づけられる。
- ・気仙川に比べて川原川は川幅が小さく、街なかに位置するため、密に架橋される小規模な橋梁群や、周囲の街並み、シンボルロード等と一体となって、ヒューマンスケールな風景を形成する。

### ◇ 高田地区の水辺の風景としての川原川

- ・川原川は、近年は水質が悪化していたものの、子供の遊び場など、昔から市民の日常の中の身近な自然環境としての役割を担っていた水辺の空間であった。
- ・40代以降の世代では、『沢蟹を採って遊んだ記憶』『水をせき止めて水遊びをした記憶』『鮭が遡上してきていた記憶』など、山と海とが一体となった豊かな生態系を持った水辺の風景として、川原川の昔の姿を記憶に留めている方も少なくない。
- ・浸水範囲外の上流では、生活と水辺との関係から生まれる風景が随所に残っている。



## 「こども達が川遊びできる 日々の暮らしと結びついた にぎわいのある川原川公園に」

